

一 日本アンダーライティング協会
アンダーライティング協会
本ライティング協会

第61回教育講習会開催

「企業情報の有効活用」テーマに

日本アンダーライティング協会は10月21日に東京都品川区のканぼ生命で、24日に大阪市の大同生命で、第61回教育講習会「企業情報の有効活用について」を開催した。帝国データバンク営業推進

部長長シニアアカウント トマネージャーの上西伴浩氏が講師を務め、生命保険の引受可否判断でも活用されている企業情報について、昨今の市場傾向や企業情報の収集方法、企業情報の見方について講演

した。東京会場では41人、大阪会場では54人が参加した。上西氏は昨今の市場傾向について、2019年の倒産件数は6年ぶりに微増で、東日本大震災の復興需要が落ち着いた点、アパレル



東京・大阪の両会場で計95人が参加

業界が不振でそれらの企業・業種と取引があ

命保険会社でもそうした着眼点が重要になる

ることを示す。商流

企業でも不振となつて振と成ることを説明。同氏は「倒産分析において、商流を重視している」と述べる

ともに、生

のではないかの考えを示した。

また、地方銀行もマインナス金利政策等の影響もあり経営環境が悪化しており、どの銀行と取引をしているかも昨今の注目点だと述べた。「倒産」の件数の3倍程度に上る「休業業」については、後継者不足・人手不足によるものが多くを占めており、高齢化・担い手不足が続いていると指

摘した。

企業情報の収集方法については、人による調査を主としており、時間をかけて経営者から80以上の項目をヒアリング、また、訪問時の企業内の様子の確認や、その他公開情報も含めて評価を行っている」と説明。近時は、粉飾を含むさまざまな種類の決算書類を作成しているケースも一部で見受けられ、そういった見極めには調査員の力と長年培ったノウハウを生かして対応している」と述べた。

企業情報の見方についても、同じ観点であるが、右肩下がりなのか、右肩下がりなのかを読み取ることが可能であることや、そのためのさまざまな着目点について説明した。

教育講習会終了後、参加者からは「企業データの活用について詳

しく知ることができた」「生命保険会社と

いうことだけでなく、社会の状況を見る上でも役立つ内容だった」「倒産や売上の減少のみをリスクと考えていたが、休業業の考え方も知ることができ参考になった」等の声が寄せられた。

(文責：アクサ生命 契約部・中原康智)

た見極めには調査員の力と長年培ったノウハウを生かして対応している」と述べた。